

| | | | | | | |
|----|------|--|--|--|------|------|
| 品名 | アルゴン | | | | 国連番号 | 1006 |
|----|------|--|--|--|------|------|

該当法規・危険有害性

| 消 防 法 | | | | | | 毒 物 及 び 劇 物 取 締 法 | | | 高 圧 ガ ス 保 安 法 | | 火 薬 類 取 締 法 | | | 道 路 法 | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------------------|-----|-----|---------------|-------------|-------------|-----|-----|-------|---------------------------|---|
| 類 別 | | | | | | 品 名 (法別表) | 毒 物 | 劇 物 | 特 定 毒 物 | 一 般 高 圧 ガ ス | 液 化 石 油 ガ ス | 火 薬 | 爆 薬 | 火 工 品 | 施行法令 第19条の12, 13に該当 | |
| 第1類 | 第2類 | 第3類 | 第4類 | 第5類 | 第6類 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ● | | | | | | ● |

| 特 性 | 危 険 性 | | | | 有 害 性 | | | | 環 境 汚 染 性 | | 性 状 | | | |
|-----|-------|-----|-----|-----|-------------|----------------|---------|---------------------|--------------|-----|-----|-----|-------|--|
| | 禁水性 | 爆発性 | 可燃性 | 支燃性 | 有 毒 ガ ス 発 生 | | | 目・皮膚に 触れると 危険 | 河川への 流入注意 | 固 体 | 液 体 | 気 体 | 水 溶 性 | |
| | | | | | 常 温 | 加 熱 時 火 災 時 | 水 に 接 触 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | ● | |

事故発生時の応急措置

- ① 車を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害にならないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)
- ② 事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、風上に避難させる。
- ③ 容器をシート等で覆っている場合は取り除き、ガスが滞留しないようにする。
- ④ 酸素欠乏に注意する。
- ⑤ 下記事項を関係機関(荷主会社、運送会社、地域防災組織等)へも連絡する。

緊 急 通 報

119(消防署) 110(警察署) 高速道路等の非常電話

[緊急通報例]

1. いつ ○○時○○分頃
2. どこで ○○市○○地区(国・県・市)道○○線○○付近で
3. なにが 「アルゴン(高圧ガス、支燃性ガス)」が
4. どうした 漏れています。
5. ケガ人は ケガ人がいます(救急車をお願いします) ケガ人はいません
6. 私の名前は ○○運送会社 ○○です

緊 急 連 絡 (特に休日・夜間に確実に連絡が取れる部署の電話番号を記入する)

| | | | |
|------|----------------|------|----------------|
| 荷主会社 | | 運送会社 | |
| 住 所 | | 住 所 | |
| 電 話 | 平日・昼間 休日・夜間 | 電 話 | 平日・昼間 休日・夜間 |

| | | | |
|----|------|------|------|
| 品名 | アルゴン | 国連番号 | 1006 |
|----|------|------|------|

災害拡大防止措置

特記事項

処理剤

- ① 漏えいしたガスが滞留しそうな場所は、酸素欠乏症のため関係者以外は立入禁止とする。
(アルゴンは空気より重くピット内等の低いところに滞留しやすい。)
- ② ガスを覆っているシート内に滞留しないよう注意する。

容器充てん圧力：35℃で 14.7MPa (150 kg/cm²) [ゲージ圧力]

相対密度 : 1.38 (空気=1 空気より重い)

色・におい : 無色・無臭

容器外面の塗色：ねずみ色

漏洩したとき

- ① 通風を良くして、ガスが滞留しないようにする。
- ② 防災工具を用い、風上でかつ漏洩しているガスの吹き出し方向の反対側より、容器バルブ又は漏えいしている部分を静かに増締めし漏れを止める。
- ③ 漏れが止まらないときは、通風の良好で安全な場所で大気に拡散させる。

周辺火災のとき

- ① 容器を安全な場所へ移動する。
- ② 移動不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。

救急措置

- ① 多量に吸入した場合は、直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。呼吸困難なときは酸素吸入を行う。
- ② 患者が発生した時は、できるだけ早く医師の手当てを受ける。